

令和3年度千代田学

千代田区内の歯科医院における医療連携の現状と推進プログラムの作成 ～安心・安全・質の高い歯科医院医療が受けられるように～

日本歯科大学附属病院 小川 智久、加藤 智崇、前田 祐貴、沼部 恵菜、黒川 理佐子

目 的

現在の歯科医療は高度に細分化され、専門性が高まっている。また患者からは専門的な治療を希望する声や他疾患併存による難症例が増えるなか、医療連携は必須である。しかし医療連携は地域によって様々であり、従来の方法を見直す必要性が高まっている。そこで我々は千代田区内にある歯科医院においてその医療連携の現状を把握し、病院間の円滑で密な情報交換が可能になるようなシステムの構築や媒体の作成を目指すためアンケート調査を試みた。得られた結果から医療連携推進の媒体を作成・配布した上で再度アンケートを実施し一定期間後に再評価を行うことでより質の高い医療連携によって口腔内のみならず全身の健康増進を最終的な目的としている。

研究内容・結果

【方法】千代田区内に開設されている歯科医院282医院に対し、歯科や医科の大学病院等への紹介の有無と内容、紹介先の対応の満足度等を問うアンケート調査を実施した。回答が得られた115医院の結果を参考にして医科歯科連携啓発のパンフレット、歯科医師向けに医療連携のポスター（図1、図2）を作成・配布した。約半年後に啓発効果を確認すべく、再度アンケート調査を行った。調査項目は初回アンケート内容に加えて医科歯科連携への意識が変化したか、連携を行なった件数に変化があったか等であった。

【結果】歯科病診連携の頻度は「2～3ヶ月に1回」、医科歯科連携の頻度は「年に1～3回」との回答が最も多かった。

また対応の満足度に関して歯科病診連携、医科歯科連携双方において「予約が取りづらい」「オンラインでのやりとりを希望」「詳しい情報がもう少し欲しい」などの意見が得られた。

歯科病診連携を行なっている歯科医院の数にほとんど変化はみられなかったが、医科歯科連携については一回目のアンケートで連携を行っていたのは全体の約60%で認識の低い傾向であったが、パンフレットとポスター配布後の2回目のアンケートでは84%と数値が上がった。（図3）

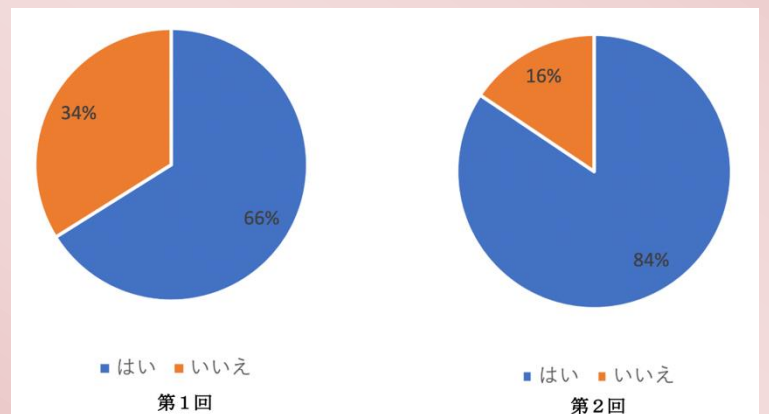


図3 医科歯科連携を行なっている歯科医院の割合が増加したのがわかる。

考察・まとめ

本事業の前後において歯科病診連携への意識に変化がなかったことは、千代田区内の歯科医院においては事業前から連携が活発に行われていたことが考えられる。一方、医科歯科連携は1回目のアンケートと比較すると大幅に連携を行う医院の割合が増加した。この結果から医科歯科連携に関して今回の医療連携啓発事業の効果が得られたのではないかと考察した。

今後もさらなる活動を模索し、医療連携を充実させることでより安心・安全で質の高い歯科治療が提供できるといえる。